

浄福寺城跡(八王子市)

築城年代:至徳元年(1384年)、築城者:大石信重

左手が浄福寺でその裏山に浄福寺城跡が展開する/山の稜線の左端に大きなアンテナが立っているのが見える



前方に標柱や説明坂が立っている





「都重宝 浄福寺観音堂内厨子」と記されている







市指定史跡

浄福寺城跡（新城）

所在地 八王子市下恩方町三二五九

指定年月日 昭和四十七年一月二十七日

浄福寺城は別名新城、千手山城などと呼ばれ、関東山地から続く丘陵尾根の東端を利用して築かれた山城です。この城については不明な点が多く、築城年代は定かではありません。築城者は江戸時代の地誌によると、大石氏といわれています。

大石氏は木曾義仲の子孫といわれ、関東管領上杉氏の武蔵守護代を務めた多摩地域の有力領主です。高月城や滝山城なども築城したといわれています。

城跡には尾根を切って作られた堀切や段上に作られた曲輪など多くの遺構が見られ、中世城郭として、また大石氏の経緯を知るうえにも貴重な城跡です。

平成二十五年三月二十八日

八王子市教育委員会

自然と文化財を大切にしましょう

市史跡 浄福寺城跡



浄福寺城跡縄張り図

『東京都の中世城跡』(平成15年) 東京都教育委員会より

浄福寺城は関東山地から連なる標高356mの尾根を利用して築かれた山城で、南側には北浅川が流れています。城の高低差は約160mもある要害の城です。

尾根頂上部に主郭を配し、ここから四方にのびる尾根を堀切り、ところどころに小さな曲輪を造作し、居住に適した広い面積をもつ曲輪を設けず、防御のみに徹した縄張りをしています。

築城については不明な点が多く、『武蔵名勝図会』によると関東管領上杉氏の武蔵守護代であった大石氏といわれています。近年の研究では、大石氏に養子に入った北条氏照の初期の居城とも、八王子城の搦め手に位置することから八王子城の出城ともいわれていますがはっきりとはしていません。しかし、中世の八王子を知るうえで貴重な城跡です。

平成25年3月 八王子市教育委員会

浄福寺城跡へは南、中央、東、北の四つのルートがあるが、大手道は東ルートのような/幾つもの平場があるが、郭としては1~5の五ヶ所らしい/「郭1」が主郭で、「郭1」は南ルートを登り切ったところにあり、「郭1」へ至る各ルート上には堀切などの防御の仕掛けが施されている

北ルート



↑
南ルート

↑
中央ルート

↑
東ルート

東京都指定有形文化財（建造物）

じょうふくじかんのんどうないずし
浄福寺観音堂内厨子

所在地 八王子市下恩方町三二五九
指 定 昭和三七年三月三十一日

『新編武蔵風土記』にある観音堂の古棟札の写しから大永五年（一五二五）観音堂が建立されたことがわかり、この厨子もその頃造られたと推察されます。厨子は本尊の千手観音像を安置するための入れ物で、建物の形を模しています。四方に丸柱を立て、正面には両開戸を備えます。扉は、棧木を組んで梓とし、間に板を嵌め込んだ棧唐戸の形式ですが、棧に鋭い山形の鎬（しのぎ）があるのが古式で、関東や東北地方の室町時代の遺構に特有のものです。組物と屋根は後補材ですが、その他の大部分は、当初のものを良好に保存しています。室町時代の様式と、地方性を備える数少ない例として貴重です。

もともとは山頂の観音堂にありましたが、昭和五三年に本堂に移設されました。

平成二三年三月 建設

東京都教育委員会

浄福寺境内は居館跡ではと云われるが、石垣が中々の雰囲気を出している





本堂





立派な宝篋印塔がある



鐘樓の右奥にマウンドが見える



こんな感じ



中々の雰囲気である



これは本堂裏の池



振り返って見たところ/まさに土塁の雰囲気







浄福寺三十三観音霊場

浄福寺三十三観音霊場

さて、浄福寺の墓地西側から城址へ登ってみよう



正面やや右手に御堂がある



これは白山神社(白山大権現)



こちら(南ルート)から登る



九十九折りの登り坂には八十八ヶ所霊場の仏像が立ち並ぶ







しばらく進むと右手に上に登る石段がある



とりあえず石段には上らずに、前に進み右手に折れて坂を登る



その角には一寸した平地がある



右手に廻り込んでいくと上に赤い屋根が見える



そこから先程の平場を見たところ



坂を登ると御堂があった



これは先程の石段/ここを上ってくると観音堂だったわけだ



これが浄福寺観音堂らしい



「都重宝 浄福寺観音堂内厨子」は元々ここにあったようだ





振り返ってこの平場を見たところ/ここは郭の一つで、折れて登ってきた坂は虎口なのかもしれない



「郭1」へ
↑



← 観音堂

↑
観音堂

さて、ここから更に登って進もう



両サイドは急峻な斜面になっている



左下を見たところ



しばらく進むとアンテナが立っていた(これが麓から見た大きなアンテナ)/この辺りは一寸した平地になっている



更に進む



ここにも一寸した平場がある



先に進もう



堀切跡のような窪みがある



堀切を横から見たところ



どんどん登って行く



土橋のような状態になっている



その左手を見たところ



同じく右手を見たところ



更に進む



足元にはこんな石垣の名残りのようなものが見て取れる



ここを進んで行く



まだ大分登るようだ



ここを左手に廻り込む



こんな平場となっている



そこから右手を見上げたところ/この上が「郭1」のようだ



更に進もう



これはその先で「郭1」を見上げたところで、豎堀となっている



この先は斜面となってしまう



少し戻って右手にある坂を進もう



左手に廻り込む/ここは虎口のような



ここが「郭1」/前方にマウンドがある



これがマウンド



これは「郭1」を東側から西方向に見たところ



これはマウンドの背後で東側から西方向に見たところ/左手はマウンド



同じく西側から東方向に見たところ/右手はマウンド



これはマウンドの西側で先程見た豎堀を見下ろしたところ



これは「郭1」を西側から東方向に見たところ



さて、ここはマウンドの上/西側から東方向を見たところ/小さな石祠(金毘羅神らしい)がある



これが石祠



東側から西方向を見たところ

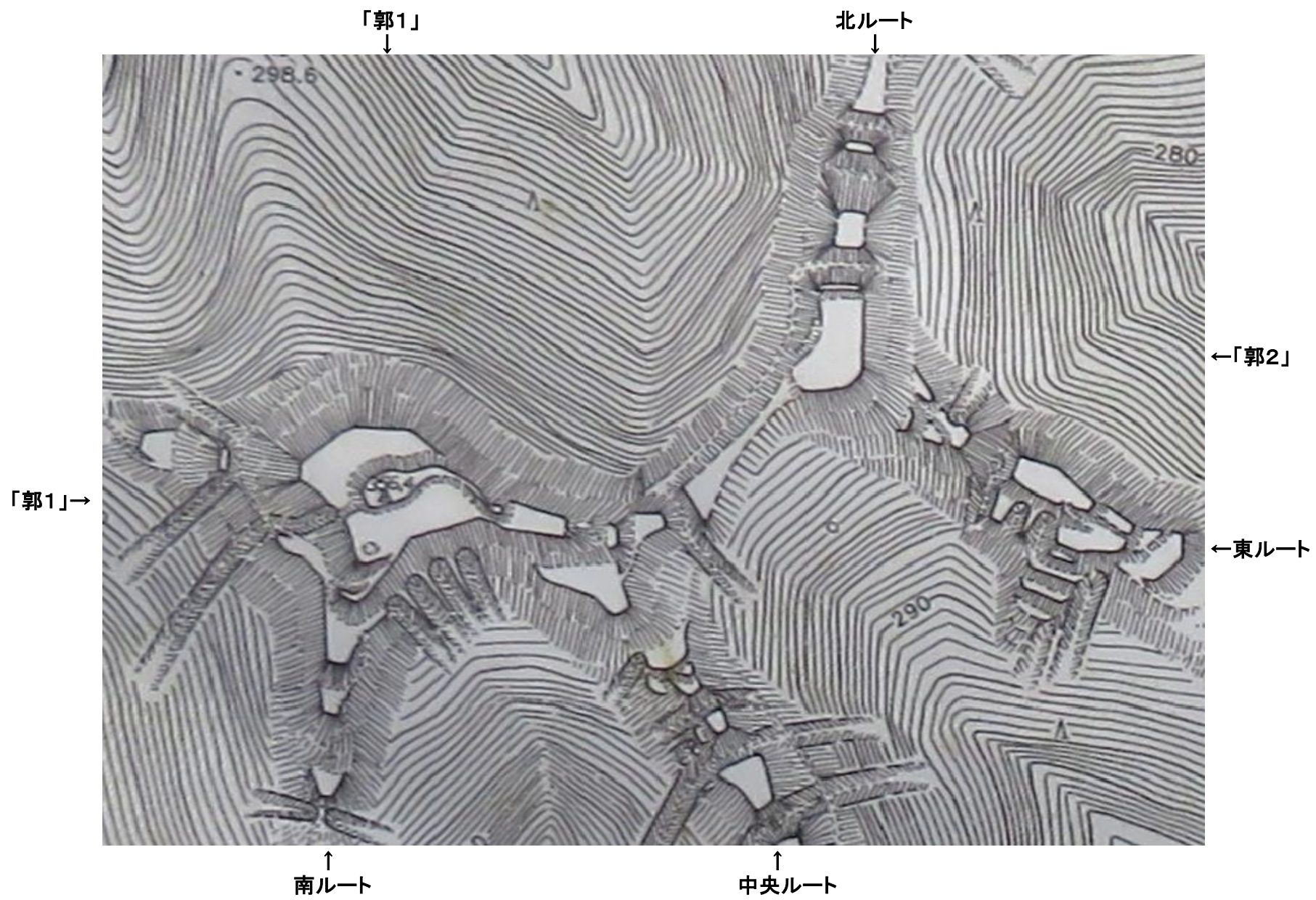


振り返ってマウンドから「郭1」へと下りる



さて、次に「郭1」から東方向へと進んでみよう





急激に下って行く



今度はここを這い上がる/この向こうは堀切となっている



前方に平場が見える



振り返ると堀切となっている



その堀底と土橋を南方向に見たところ/左手が平場のある方向



その先に武者走りのようなものがあるようだが、後程こちら(中央ルート)へ行ってみることにする



さて、平場を更に東方向に進んでみよう



左手(北方向)へ折れて行く



更に進む



堀切がある



堀底に下りて、今来た方向を見上げたところ



その堀底を見たところ/東側から西方向に見たところ



その先は斜面となっている



振り返って西側から東方向に見たところ



その先も斜面となっているが、こちらには下って行く道がある



こんな感じになっているが、こちら(東ルート)も後程行ってみよう



堀切を渡って振り返って今来た方向を見たところ



渡った堀切を覗きこんだところ



さて、堀切を越えて更に北方向へ進むと平場があり、ここが「郭2」



するとその先にも堀切がある



堀底に下りて行く



これは土橋



堀底を西側から東方向に見たところ



右手の今来た方向を見たところ



左手の更に進む北方向を見たところ



さて、堀切を越えて更に北方向に進もう



前方に一寸したマウンドが見えてくる



これがそのマウンド



マウンドに登ると東側に土塁がある/ここが「郭3」



土塁の状況



北ルート

「連続畝堀」

北東方向へ続く尾根



「堀切」→

「堀切」→

「郭3」→

←「連続畝堀」

「郭2」→

↑
北ルート



マウンドを越えて更に北方向に進む/かなり下って行く



すると「二重堀切」がある



手前の堀底を覗いたところ/その先の土塁の向こうにもう一つ堀切がある



手前の堀底に下りて東側から西方向を見たところ



反対に西側から東方向を見たところ



その先は下に「連続畝堀」がある/写真右下から左上に三筋の畝堀が見える



これは二つ目の堀切



手前の堀底に下りて東側から西方向を見たところ



反対に西側から東方向を見たところ



その先を見たところ/ここから「連続畝堀」のエリアに行けそうだが、後程行ってみよう



これは右手の今進んできた方向を見たところ



さて、「二重堀切」を越えて更に北方向へ進もう



これは振り返って二つ目の堀切を見たところ



北方向へ進む



この先は絶壁になっている/開発工事で削り取られてしまったようだ



さて、引き返して「連続畝堀」のエリアに下りてみたところ



人工的に畝が掘られているのが見て取れる



こんな具合



「連続畝堀」の右手前方に平場とが見える



これがその平場で「郭4」



これはその「郭4」の辺りから「連続畝堀」を見たところ



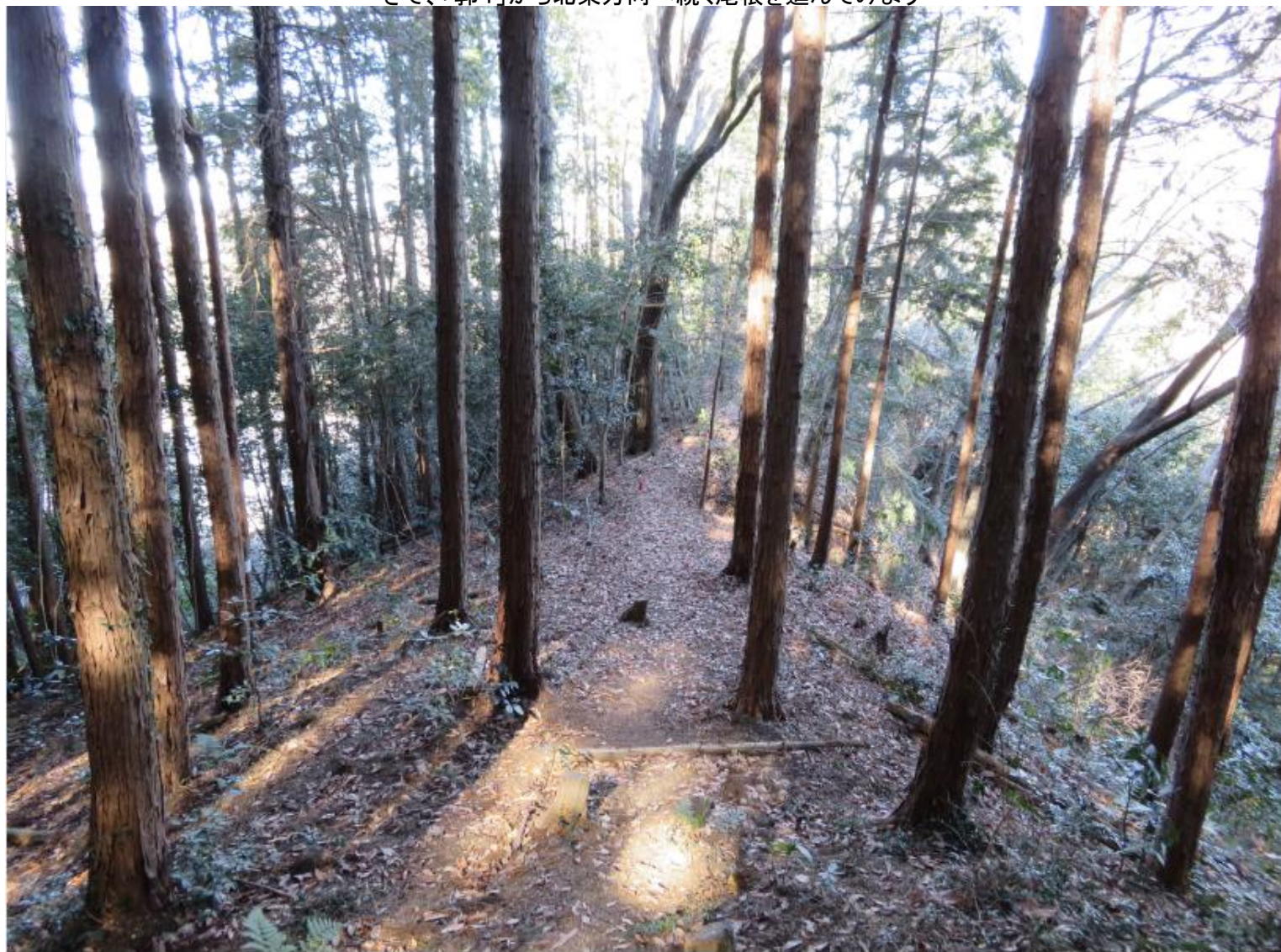
「連続畝堀」を真下から見たところ/平坦な部分に蒲鉾状に堀を入れたもので、敵の横移動を阻止するためのものらしい



斜め下から見たところ



さて、「郭4」から北東方向へ続く尾根を進んでみよう



途中、堀切がある



更に進む



この先も絶壁になっている/開発工事で削り取られてしまったようだ



その崖下を覗くとユンボが作業しているのが見えた



さて、「郭2」まで戻り、ここから東ルートを下ってみよう



南東方向へ下りて行く感じ



平場が見える



更に進む



堀切がある



左手を見たところ



右手を見たところ



更に進むとこんな感じ/この先には「郭5」があるらしいが、時間の関係でここで「郭1」近くの中央ルートまで戻ることとする



さて、この堀底から中央ルートを下ってみよう



この先は武者走りのような状態



こんな感じのところを下って行く



ここまで来ると右手が開けている



右手を見上げたところ



その上に登って南東方向を見たところ/平場となっている



振り返って見たところ/「郭1」の東側から南東方向に下に向かって築かれた何段もの平場の一つのような



さて、この中央ルートを南東方向に下って行こう



堀切がある



左手を見たところ



更に進む



また堀切がある



土橋を見たところ



堀底で右手を見たところ



堀切を渡って振り返って見たところ



更に進む



マウンドになっているところがある



マウンドに登ったところ/左手に一寸した平地がある



更にその上に広めの平場があった



これが平場の先端付近



そこからどんどん下っていく



最後は必死の思いで藪漕ぎをしながら、浄福寺西側の墓地のところまで滑るように帰還した/その現場が正面の藪化した斜面



参考ホームページ

<http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/001tokyo/020jyofukuji/jyofukuji.html>

<http://yogokun.my.coocan.jp/tokyo/hatioujisi02.htm>

<http://senjp.com/jyoufukuji-shiro/>

<http://blog.goo.ne.jp/hanako1033/e/9d4c572c7f5e942274ad48040ffd4a08>

<http://utsu02.fc2web.com/shiro315.html>

<http://www.hb.pei.jp/shiro/musashi/jyofukuji-ijo/>

<http://ameblo.jp/napo-iou/entry-11528166317.html>

<http://www.geocities.jp/buntoyou/f11e/tk-f2593jyofukuji.html>

http://rekishi.tokyo/ruo_tokyo/hachiouji/20140921.html

<http://jp-castles.cocolog-nifty.com/blog/2013/12/post-6d0f.html>

<http://shmz1975.cocolog-nifty.com/blog/2013/02/post-d820.html>

http://yorimichi2012.blogspot.jp/2013/02/blog-post_18.html

http://gi001.gokenin.com/tanbou/13_tokyo/06_minami_tama/003_hachiouji/ange/ange_jou.html

<http://hachibutu.com/jyoufukuji.html>

